



常に人工関節置換術股関節部門で全国上位3位以内! 湘南鎌倉人工関節センター 開設10周年

国内で初めて、人工関節に特化した湘南鎌倉人工関節センター。10月5日に開設10周年を迎えます。こちらで手術を受け、生き活きと元気に過ごしていらっしゃるお二人の患者さんにお話を伺い、センター長の平川和男氏(53)に10年を振り返ってもらいました。



最小侵襲手術(MIS)の様子

中村隆子さん

「生まれつき亜脱臼(不完全脱臼)で、小さい頃はギプスを装着していたそうです。物心ついてから全く不便はなく、たまに整形外科にかかると、『関節が浅く入っているので筋肉をつけましょう』と言われていた程度。40歳を過ぎたころから痛みを感じるようになりまして。50歳を過ぎると立ち上がろうとすると痛み、それを想像するだけで歩くのが怖くなりました。55歳でセンターの噂を聞き、痛みを取りたい一心で受診、手術を即決。手術に対しては何も怖くなかったです。術後はあれもこれも何でもできる!もう嬉しくて笑)。センターでのボランティアを経て、今はヘルパーの仕事に復帰、やりがい満ちた、忙しい日々を過ごしています」

中島房栄さん

「私も生まれつき股関節が悪く、3歳までギプスを装着していました。激しい運動はできなかったものの、普通に生活していました。子育ても終わり、これからは自分の人生、と思った40代後半から痛みが。偶然、人工関節置換術を受けた方に出会ったことから平川先生のご存在を知り、手術を受けました。『行きたいところに行ける喜び。この体験が悩んでいる人の励みに

なれば』と思い、センターのボランティアに立候補(笑)、6年間患者さんの悩みを聞いてきました。その後、医療事務を学び、縁あってセンターで働いています」



当時の様子を語る中村隆子さん(右)と中島房栄さん(左)

お二人から痛みで悩んでいる方々へメッセージ

中村「自分の痛みはなんだろう?」インターネットなどで情報を集めてください。口コミでも噂でも、大切な情報。自分の身体のこと、真剣に考えましょう」

中島「同じ股関節の痛みでも悩みは人それぞれ。様々な思いをかかえた人同士が相談し合い、支え合える、湘南鎌倉人工関節センターはそんな場所です。気軽に見学にいらしてほしいです」

医療行為に終わりは無い

「1993年から3年間アメリカに留学し、人工関節の基礎研究に従事したのち、小切開による人工股関節置換術(最少侵襲手術MIS)を学びました。当時日本では人工関節手術は手術時間・入院期間も長く、術後の経過も芳しくない状況。ところが、アメリカでは手術時間も退院も早い。『なんだ、これは!』と衝撃を受けました。帰国後、『医者としての人生を悔いなく終えたい』という思いで、人工関節に特化したセンターの開設を目指しました。日本にまだ単独の専門施設はなかった時代。患者さんのQOL(ク

オリティ・オブ・ライフ)を尊重した、最高の診療体制を実現するため、努力と時間を相消費やしました。

2004年に開設してから10年。目標だった早期退院(3泊4日)も叶い始めています。5年後、どうなっていたいか?患者さんにもっと気持ちよく受診していただきたい。ここで働く医師やスタッフたちにはさらに人格や技術を向上してもらわないと。この精神を次世代につなぐなくてはいけません。また手術直後の痛みや苦痛をなくすなど、『手術』怖いイメージをなくすことも目指したい。究極の目標は手術をしないで治すことです(笑)。

患者さんの期待に倍返し、3倍返しできるように、『このセンターで手術を受けてよかった』と思っていただけるよう、日々向上し続けます」



平川和男氏

横浜市立大学医学部大学院博士課程修了。米国クリブランドクリニック留学、横浜市立大学附属市民総合医療センター整形外科講師、平塚共済病院整形外科医長、湘南鎌倉総合病院整形外科部長などを経て、現在は湘南鎌倉人工関節センター・センター長



湘南鎌倉人工関節センター
☎0467(47)2377(代表)
http://www.skjrc.jp
〒247-0061 鎌倉市台5丁目4-17

